

コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

トウネズミモチ (*Ligustrum lucidum* Ait.)

細木大輔 (独立行政法人農業環境技術研究所)
hosogid@affrc.go.jp



梅雨時に高速道路を走っていると、路側帯の所々にトウネズミモチの白い花を見かける。大きめの花序で咲く満開の花は、注視せずともそれと分かる。秋からに冬にかけては果実が黒紫色に熟し、ヒヨドリなどの野鳥がそれを目当てに群がっているのをよく見かける。

トウネズミモチは、明治初期に渡来した中国原産の常緑小高木であり⁷⁾、冬でも青々と葉が茂り、萌芽力が旺盛で刈り込みにもよく耐え、純白の花序が美しい。大気汚染に強いため道路植栽としてよく用いられており、近縁のネズミモチを含む統計では、全国の一般道路で106万本(低木で14番目に多い)、高速道路会社が管理する道路においては93万本(低木で4番目に多い)が使用され、宮城県、山形県以南によく植栽されている⁸⁾。道路の中央分離帯に植栽されているものには、粉塵で葉が真っ黒になりながらも生きているものがある。たいへん強靱な性質の持ち主であり、植栽される土壌を選ばない⁵⁾ことから緑化植物としての有用性は高い。

トウネズミモチはモクセイ科イボタノキ属に属し、樹高は10~15mに達する。葉は対生に付け、葉身は長さ6~12cm、幅3~5cmの卵状楕円形であり、先は次第に細くなって尖る。無毛で縁は全縁、表面は濃緑色で光沢があり、日にかざすと、右上の写真のように脈が黄色く透けて見える。果実は直径5~6mmの楕円形である⁷⁾。園芸品には葉の縁が桃色や白色のトリカラー(トリコロール)と呼ばれるものがある。近縁の在来種であるネズミモチ(*Ligustrum japonicum* Thunb.)は、葉が厚くて小さく、日にかざしても脈は透けにくい。両種はこの点で区別ができる。また、ネズミモチは樹高5m程度にしかならず、果実はトウネズミモチよりも細長い。

ネズミモチの名は、葉がモチノキに似ており、果実が「ネズミの糞」に似ていることに由来し、トウネズミモチは中国原産なので頭に「唐」が付けられている。トウネズミモチは中国名および漢方では女貞(じょてい)と言い、果実には内臓を丈夫にし、精神を安定させ、精力を旺盛にするなどの効果がある²⁾。野鳥たちは薬効あるこの実を食べることで冬の寒さを乗り切っているのであろうか。

種子の散布様式は動物散布型であり、鳥によって野外で多

く散布されている^{3,8)}。そのため、鳥が止まれそうな場所の下によく実生を見かける。筆者の自宅の前には樹高8m程のトウネズミモチが植わっており、ケヤキの下のサツキの植え込みには多数の実生がみられる。植え込みから頭を出すと気がついて根元から伐るのであるが、倍返して萌芽してくる。刈り取るだけで完全になくすにはかなり根気がいるようである。本種は、オーストラリアやニュージーランドなど世界の6ヶ国において侵略的外来生物として注意がなされており⁹⁾、我が国においても都市緑地や河川などに逸出していることが報告されている^{1,3)}。そのため環境省は、本種を適切な取り扱いを求める要注意外来生物として指定している⁴⁾。

トウネズミモチとネズミモチを比較すると、前者の方が花序が大きく園芸的価値が高いという良さがあるが、植栽が容易な点や、成長が早く刈り込みに耐える点など、植栽木としての性質にはほとんど差がないようである⁵⁾。逆に、ネズミモチにはトウネズミモチよりも耐陰性が高い³⁾という優れた点がみられ、在来種のネズミモチでもトウネズミモチの代役は十分に務まると思われることから、そちらの使用をおすすめしたい。ちなみに漢方の効能も同じである²⁾。

引用文献

- 1) 橋本佳延・中村愛貴・武田義明(2007)洪水が都市河川に侵入した外来樹木トウネズミモチ(*Ligustrum lucidum* Ait.)の分布拡大に与える影響, 保全生態学研究, 12: 103-111.
- 2) 井波一雄・会田民雄(2006)薬草, 山と溪谷社, pp. 198-199.
- 3) 伊藤千恵・藤原一繪(2007)都市域森林群落における外来種トウネズミモチ *Ligustrum lucidum* Ait.の分布と生態的特性, 保全生態学研究, 12: 143-150.
- 4) 環境省HP, http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/caution/list_sho.html
- 5) 北村文雄他(1982)都市樹木大図鑑, 講談社, pp. 464-465.
- 6) 国土技術政策総合研究所(2004)国土技術政策総合研究所資料 146, 我が国の街路樹Ⅴ, 235 pp.
- 7) 城川四郎他(2001)山溪ハンディ図鑑5樹に咲く花, 山と溪谷社, pp. 282-285.
- 8) 吉永知恵美・亀山 章(2001)都市におけるトウネズミモチの分布拡大の実態, 日本緑化学会誌, 27(1): 44-49.
- 9) 吉岡俊哉(2005)造園植物における予備的侵略性リスク評価の試み, ランドスケープ研究, 68(4): 296-300.



樹形



花卉は白色，花柄は白みがかった黄緑色。



樹皮は皮目が目立つ。



熟した果実は黒紫色。



高速道路沿いの植栽。梅雨時に開花し，花卉が付いている間は白色に目立ち，花卉が落ちた後は白みがかった黄緑色に目立つ。